



現代社会から

現在は、予測が難しい時代です。予測が難しい社会に踏み出す勇気を子どもたちには持ってもらいたいと思っています。しかし、自分の力だけでは、解決が難しいことが出てくるとも思っています。そんな時に大切なのは自ら「相談する力」ではないでしょうか。「自ら言葉を発し、誰かに伝える」ことは、これから社会で生活していくうえで、大切なスキル（技術）の1つだと思います。「もし、自分で解決できないことなどが出てきたら、そのことを自分から誰かに相談してみる」そういう力を子どもたちには付けてもらいたいです。そして、私たち学校の職員は、気軽に相談できる信頼されている大人でありたいものです。

学校行事より

◎田植え体験

テレビや新聞などで、田植え体験のニュースがいくつか報道されています。本校でも後援会長の 鞭馬 公直 さんの全面的な協力のもと、全校児童に中原保育園の園児さんも加わり、5月23日に田植え体験がありました。5・6年生は慣れたもので、スピーディに苗を植える姿が見られ、ここ中原では、1度きりの体験ではなく、体験が積み重なっていることを実感しました。また、子どもの感想には、「田植えが苦手だったけど、楽しかった」「農家の大変さが分かった」「体験の準備をしていただいたことに感謝します」などがありました。

◎日曜学校

6月15日の日曜日は、公開授業、救急救命法講座、親子ふれあい作業などを実施した「日曜学校」でした。公開授業では、4月からの新しい学級にも慣れた子どもたちの様子を見ていただきました。また、救急救命法講座では、北部分署の皆さんを講師として迎え、「救命の連鎖の大切さ」、「なぜ、胸骨圧迫をするのか」など、消防署の方からの話を聞いたあと、保護者と子どもに分かれ、人形を使い、胸骨圧迫やAEDの使い方について実際に訓練を行いました。訓練の最後には、「プールの監視の仕方」や「プール使用は必ず2人組で」、「溺れるときは静かに溺れる」などの話を聞きました。プール開きも終わり、学校として安全な水泳授業を進めていきます。また、親子ふれあい作業はたいへんお世話になりました。

◎集団宿泊教室

5年生は、町の3小学校連合で6月25日～27日（2泊3日）の日程で、あしきた青少年の家に宿泊する集団宿泊教室に行きました。1日目は水俣の環境センター見学など、水俣病についての学習、2日目はマリン活動など、3日目は創作活動でした。5月の報道で「水俣病に対し、まちがった認識を教育機関の担当者が持っていた」とありました。持続可能な社会をめざす一員になってほしい子どもたちにとって、今回の集団宿泊教室は、水俣病をはじめ、環境保全に関して正しく理解する機会となりました。これからも環境や人権を守るために、自分が携わる意識を高めていってほしいと思います。

